

# かたあきの里

〔応募者〕 氏名：中本まり子 勤務先名：特定非営利活動法人蒸暑地域住まいの研究会 勤務先住所：沖縄県浦添市安波茶 1-32-13 大平インタービル2階  
連絡先(勤務先)：TEL(098)871-3122 FAX(098)871-3133 Email: malix@sumai.asia

## ●地域性への配慮事項

戦後、沖縄ではシロアリや台風に対する耐久性が木造は弱いという概念が市民に浸透し、アメリカ軍によって持ち込まれたRC造が急速に普及した。

現在でも新築される戸建て住宅のうち木造はわずかに5%程度に過ぎない。本事業ではRC造が沖縄にふさわしいという固定概念を払拭し、伝統的木造住宅が人にも地球にも優しい住宅であることを、多くの人に伝えることを目的としている。

実際、沖縄でも県外の木造メーカー進出により、木造住宅が徐々に増加傾向にある。平成21年には、年間約180戸だったのが、平成22年には、300戸を超える木造住宅が建築された。

いっぽう、これまでの住宅の省エネルギー技術は、主に寒さ対策に主眼が置かれ、そのため住宅の高断熱、高气密化が押し進められてきているため、暖房を必要としない沖縄ではこれまでの技術では、十分な省エネルギー効果が得られない。

地域には、それぞれの気候風土に応じて形成されてきた独自の住文化がある。「かたあきの里」は、地域の住文化に立脚した発想を『伝統的な住まい+新技術』として結集させたものであり、その成果は、アジアの蒸暑地域において、今後さらなる低炭素型居住空間の構築を図っていく上で先鞭となるものと期待される。

## ●作品の概要

① 事業主体：合同会社かたあき

設計者：岩田 司 + 阿部建築研究室 + 伊志嶺敏子一級建築士事務所  
設計協力：金山町森林組合 杉井範之

NPO 蒸暑地域住まいの研究会 山口 洋子 / 平良 啓

施工者：有限会社 垣花建設

活用した事業制度：国土交通省 地域住宅モデル普及推進事業

## ② 計画概要

敷地面積：2960.00 m<sup>2</sup>

用途：生活体験施設

構造：木造

階数：平屋

タイプ別住戸面積：

極小タイプ1棟 建築面積 60.77 m<sup>2</sup> 延床面積 39.27 m<sup>2</sup>

小タイプ3棟 建築面積 53.00 m<sup>2</sup> 延床面積 74.50 m<sup>2</sup>

中タイプ2棟 建築面積 91.09 m<sup>2</sup> 延床面積 66.25 m<sup>2</sup>

大タイプ1棟 建築面積 160.90 m<sup>2</sup> 延床面積 124.21 m<sup>2</sup>

住戸数：7戸

設計期間：平成21年5月15日～平成21年11月30日

施工期間：平成21年12月1日～平成22年3月29日

## ●作品の特色

「かたあきの里」は建築研究所の指導の下、国土交通省の地域住宅モデル普及推進事業によって建設された生活体験宿泊施設で、木造平屋7棟が2010年3月に完成した。

沖縄の古民家に見られる伝統的な形態や間取りは、高温多湿な沖縄には最も適していることから、伝統木造住宅のプランを基本とし、自立循環型住宅設計技術の蒸暑地版にまとめられた様々な最新技術を取り入れるとともに、現代生活にも十分対応

できるように、システムキッチンやトイレ、風呂などの最新設備を備えている。また、最も湿気のある浴室は外部空間へ設置した。

構造的には、表座（座敷）と裏座の間にある床の間、仏壇、および物入れの部分がコアを形成し、2方向の全面開放を実現しながら、沖縄の強烈な台風にも耐えられるものとした。この構造は、沖縄の風圧の基準に適合している。

現代住宅でも、この伝統的なプランにLDK+水回りをつけたプランが多く、この建築は伝統的形態でありながら、現代生活に対応し、かつ本土とは違った暖房がほとんど必要ない沖縄の気候風土に最適な最先端技術を盛り込んだものであり、今後NPO 蒸暑地域住まいの研究会ではこの「かたあきの里」を端緒として、沖縄にふさわしい木造の普及を図ってゆくとともに

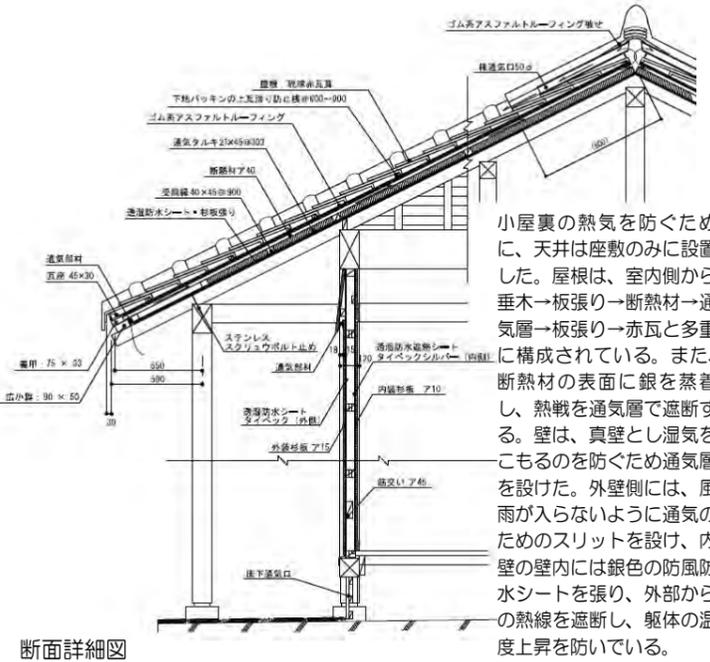
具体的には、十分な通風・通気・換気を確保するために、開口部を大きく取り、開放的な間取りにしている。また、外出時や夜間の通風、換気を確保するため、換気用の小窓や鍵のかかる格子の網戸などを設けた。基礎も東基礎にして床下の換気も十分に確保している。

遮熱効果を高めるため、軒の出を深くして壁への直達日射を防ぐ、軒先にすだれをかけて太陽光が直接室内に入射するのを防ぐなどの工夫をしている。

また、壁、屋根に通気層を取り、屋根では銀を付着した断熱材を、壁では銀色の防風防水シートを張り、外部からの熱線を遮断し、躯体の温度上昇を防いでいる。



かたあきの里アプローチ 琉球石灰岩で積まれた白い石垣が屋敷を囲う。



断面詳細図

小屋裏の熱気を防ぐために、天井は座敷のみに設置した。屋根は、室内側から垂木→板張り→断熱材→通気層→板張り→赤瓦と多重に構成されている。また、断熱材の表面に銀を蒸着し、熱線を通気層で遮断する。壁は、真壁とし湿気をこもるのを防ぐため通気層を設けた。外壁側には、風雨が入らないように通気のためのスリットを設け、内壁の壁内には銀色の防風防水シートを張り、外部からの熱線を遮断し、躯体の温度上昇を防いでいる。



息道（イーチミー）通気口

伝統的工法のひとつで、室内の熱を天井から屋根へ通気する。



中タイプ

庭で冷やされた外気が室内へ入る



裏座

この部屋は、本来和室の寝室であるが、このタイプは洋室としてベッドを置いた。

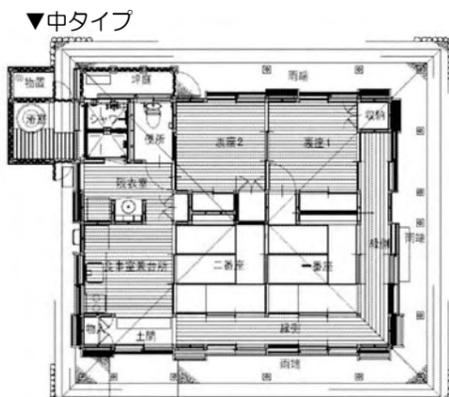


防犯を考慮した常時通風可能な大きな開口

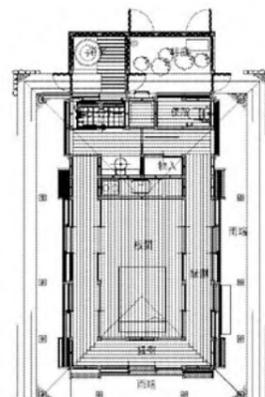
雨戸、ガラス戸はすべて戸袋に収納し、普段は鍵のかかる格子網戸のみで、十分な通風と防犯性を確保している。



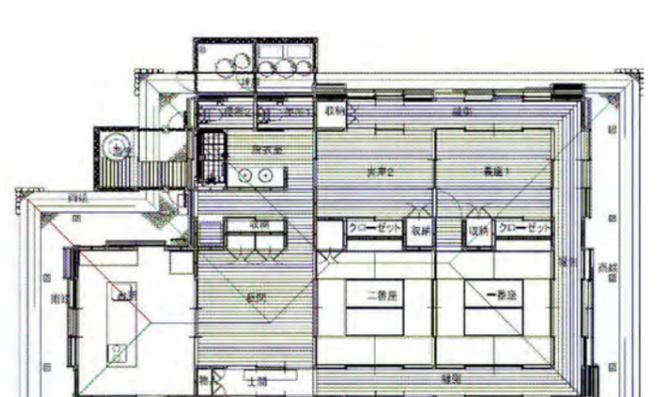
▼小タイプ



▼中タイプ



▲極小タイプ



▲大タイプ

各住戸とも大きく軒をだすことによって、雨端空間を構成する。

雨端によって雨天時でも窓を開放でき、更に晴天時は、日差しを避けながらも通風効果が得られる。平面的にも開放的なプランとなっている。